産地いきいき健康エンドウ生産技術
—紀州の豆で健康と豊かな暮らしを—

和歌山県における実エンドウの出荷量は全国第１位、栽培面積では鹿児島県に次いで第2 位です（写真１）。粗生産額は県内野菜全体の約 20%を占めており、本県の特産野菜となっています。

しかし、近年、収量の低下や冬期のハウス栽培（写真２）における子実肥大の不良（写真３：空気莢と呼ばれています）などの問題を抱えています。

一方、消費者からは高品質で安全・安心な野菜を求める声や栄養・機能性への関心が高まっています。

暖地園芸センターでは、県関係機関、大学や JA など他機関と共同し、『産地いきいき健康エンドウ生産技術』の確立に取り組んでいます。主な内容は、

①新品種「紀の輝」の栽培管理技術の確立
②多収生産技術の開発
③空気莢の原因解明と対策
④栄養・機能性成分の分析

です。これらにより、エンドウ産地の活性化と消費者に信頼される和歌山県の豆ブランド化を目指します。

写真１
和歌山県における
実エンドウ栽培の様子（露地栽培）

写真２　秋まきハウス冬春どり栽培

写真３
空気莢の様子（左；空気莢、右；正常な莢）
空気莢は写真のように外見は正常ですが、
子実が十分肥大していません。

（園芸部　川西 孝秀）